



京町家まちづくりファンド 寄付付き商品 コラボ企業募集中

売上金の一部が京町家まちづくりファンドへの寄付となる商品を開発しています！

京町家まちづくりファンド寄付付き商品 コラボ企業
コカ・コーラウエスト(株)/徳伊藤園/キリンビバレッジ(株)/棟ドール/京都青果合同(株)/光村推古書院(株)/関井筒八ツ橋本舗

まちづくりチョビット推進室

まちづくり活動や景観保全の活動について、ゲストをお招きしてコミュニティラジオ放送で配信しています。

放送 第3・第4 土曜日 15:30～16:00
第3・第4 日曜日 7:00～7:30

過去の放送分はこちらでお楽しみいただけます。
<http://machi.hitomachi-kyoto.jp/suisin.html>

ホームページ運営の
お手伝い！

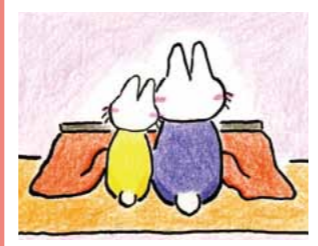
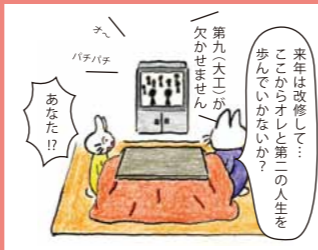
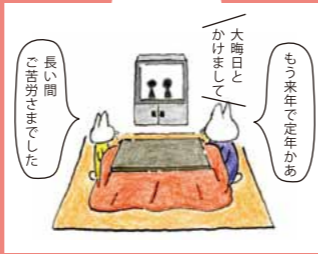
地域のホームページ 運営支援

地域の情報共有・
情報発信をお手伝いします。
(京まち工房 47号掲載)

賛助団体

大阪ガス株式会社 / 桂坂学区自治連合会 / 京都駅ビル開発 株式会社 / 社団法人 京都市観光協会 / 学校法人瓜生山学園 京都造形芸術大学 / 社団法人 京都府建築士事務所協会 / 京町家居住支援者会議 / NPO法人 古材文化の会 / 株式会社 ジェイアール 西日本伊勢丹 / 修徳自治連合会 / 一般社団法人相続相談センター / 株式会社 ゼロ・コーポレーション / 株式会社 地域計画建築研究所 / 財団法人 手織技術振興財団 公益事業部 織成館 / 都市居住推進研究会 / 株式会社 八清 / 株式会社 フラットエージェンシー / 平安建材株式会社 / 株式会社 マーブル / 松ヶ崎学区自治連合会 / ミサワホーム近畿 株式会社 / 有隣学区自治連合会 / 立命館大学歴史都市防災センター / ローム 株式会社

京兎物語 ペンネーム ひこ



(財)京都市景観・まちづくりセンター

〒600-8127
京都市下京区西木屋町通上ノ口上の梅湊町83番地の1
(河原町五条下る東側) ひと・まち交流館 京都 地下1階

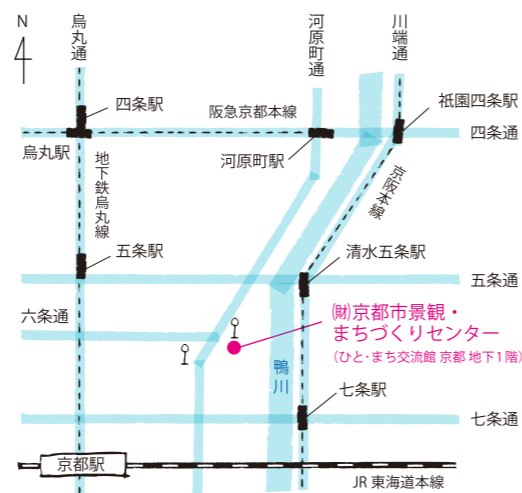
TEL: 075-354-8701 FAX: 075-354-8704
<http://machi.hitomachi-kyoto.jp/>

開館時間
平日・土 9:00～21:30
日・祝 9:00～17:00

休館日
毎月第3火曜日(国民の祝日にあたる時は翌日)
年末年始(12月29日～1月4日)

交通系統
バス 市バス4・17・205号系統「河原町正面」下車
電車 京阪電車「清水五条」下車 徒歩 8分
地下鉄烏丸線「五条」下車 徒歩 10分

マチ右衛門 Twitter
始めました！



センターへお越しの際は公共交通機関をご利用ください。



京都市景観・まちづくりセンターは環境負荷低減に努めています。

design: Marble.co

パートナーシップで進めるまちづくり

京まち工房 53

(財)京都市景観・まちづくりセンター ニュースレター



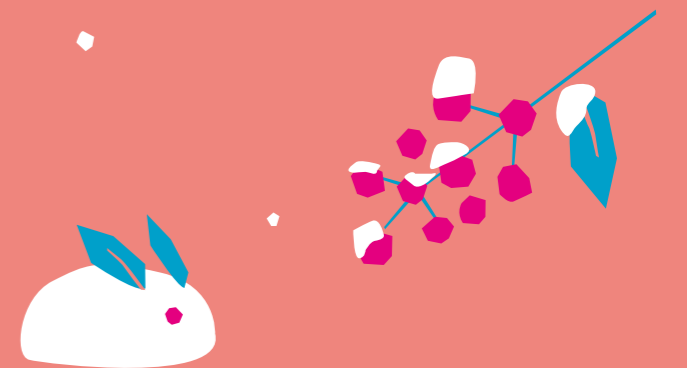
特集 桂坂学区のまちづくり



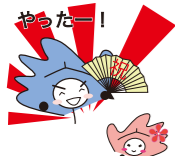
■ まちづくり報告
マンションで横のつながりを生み出す
明日に活かす京町家
釜座町の町家の再生

■ まちづくりイベント
京のまちづくり史セミナー
京町家再生セミナー
京町家再生セミナー参加者の集い

■ コラム
私と京都
ふっきーの徒然なるままに
スタッフのつぶやき



<http://machi.hitomachi-kyoto.jp/>



思いがけないクリスマスプレゼントね。

特集

桂坂学区のまちづくり

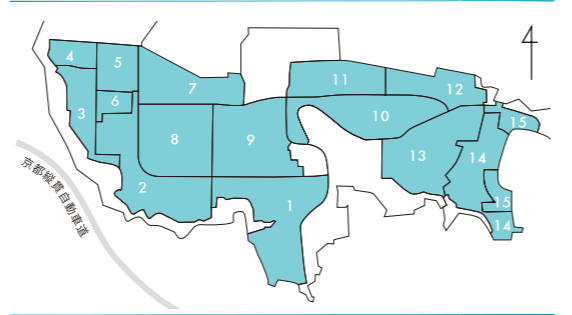
— 20年後も輝き続けるまち「桂坂」を目指して —

桂坂学区（京都市西京区）

緑豊かなニュータウン。
低層の戸建を中心とした
閑静な住宅地です。

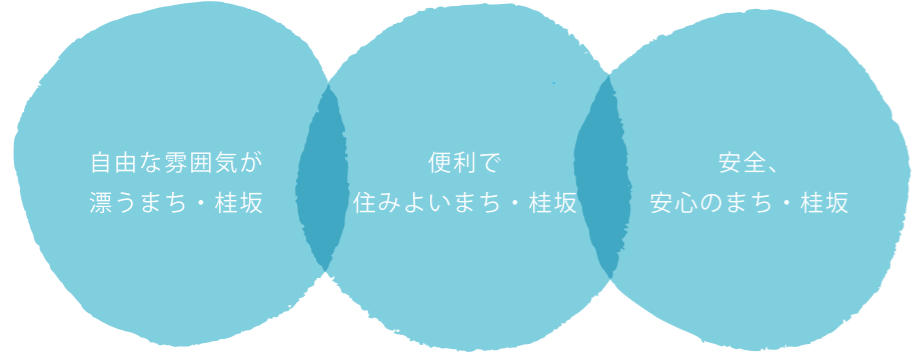


桂坂15学区と全体地区図



- | | | |
|-------------|-------------|-------------|
| 1. かえで自治会 | 6. ぼぶら自治会 | 11. もくれん自治会 |
| 2. さつき自治会 | 7. けやき自治会 | 12. あすなる自治会 |
| 3. しらかば自治会 | 8. ひいらぎ自治会 | 13. にれのき自治会 |
| 4. はなみずき自治会 | 9. つばき自治会 | 14. もみのき自治会 |
| 5. あかし自治会 | 10. くすのき自治会 | 15. さくら自治会 |

桂坂学区は、京都市西京区、西山に抱かれた丘陵地に開発された緑豊かなニュータウンで、昭和61年にまちびらきが行われました。低層の戸建を中心とした閑静な住宅地です。桂坂学区には現在15の自治会が存在し、20年以上にわたって住民の方々による主体的な地域運営により、美しく良好な住環境が保たれてきました。



桂坂の3つの基本理念



整備された石畳通り

建築協定と地区計画における取組

桂坂学区では開発当初から一人協定※による建築協定を定めており、全体で38地区にのぼります。これらの地区は主に各自治会を単位として運営されてきました。平成19年には、これらの運営委員会の連合体として桂坂地区建築協定協議会も設立されています。桂坂学区自治連合会では、各種団体などとも連携し、「自由な雰囲気が漂うまち・桂坂」「便利で住みよいまち・桂坂」「安全、安心のまち・桂坂」の3つの基本理念を軸に、未来を見据えた教育・福祉・環境・景観問題等の課題に幅広く取り組んでこられました。また建築協定協議会では、各地区の協定運営委員会が抱えている種々の問題点や対応方法について積極的に情報共有や意見交換・

検討を行い、より良い桂坂の町並み維持・創造に向けて継続的に活動されています。こうした住民の皆さんの努力により、桂坂の良好な住環境が維持されてきたと言えます。尚、桂坂学区においては、自治会活動が大変活発で自治会加入率も90%を超えており、住民が自治会名に馴染みをもっているため、平成21年には、建築協定や地区整備計画の各地区名を開発業者が当初につけた「桂坂第20地区」等といった名称から「桂坂ひいらぎ南地区など自治会名に準じた名称に変更し、「わがまち」としての意識を高め住民主体のまちづくりを一層推進されています。

※建築協定は複数の土地所有者等の合意によるものが本来ですが、新しく開発された住宅地等で、開発事業者が土地を分譲する前に、一人で協定を結ぶ場合を「一人協定」と呼びます。



桂坂夢まちプロジェクト

平成21年には、「20年後も輝き続けるまち『桂坂』を目指して」をテーマに、「景観やまちづくり資源の発見と創造」を目的とした桂坂夢まちプロジェクトが始まりました。

桂坂建築協定協議会では、広く住民の参画を得て、実行委員会を立ち上げられています。このプロジェクトでは、国の「住まい・まちづくり担い手

事業」より助成金を受けスタートし、「桂坂まち歩き」、「桂坂フォト

ハイキング」、近隣小学生達の「桂坂のお気に入りの場所の絵募集」、京都市立芸術大学の学生による桂坂の絵画作成、ホームページの制作や、建築協定啓発看板の設置、桂坂学区自治連合会と共同実施した「桂坂地区の住まい・まちづくりを考えるアンケート調査」など、数々の取組を展開されてきました。まとめの事業として開催された「景観まちづくりフェスティバル」には約300名の方が参加されました。これらの活動を通じて、より多くの地域住民が桂坂の景観や将来のまちづくりを考えるきっかけを得ることとなったようです。



景観まちづくりフェスティバル



桂坂まち歩き



ミニ・ワークショップ

国の支援は1年で終了しましたが、引き続き京都大学大学院・工学研究科（桂キャンパス）等の協力も得て「桂坂まち歩き」や「住民アンケートの最終報告会」など、桂坂夢まちプロジェクトを継続されています。

また、今年度においては、「まちづくり資源の発見と創造」の観点から、協議会は、自治連合会と共に桂坂地区内にある「古墳の森」の復活と保存を目指した取組をされています。

ホームページ
できました！

桂坂学区自治連合会ホームページの立ち上げ



今年度より、センターでは地域の情報発信ツールとして桂坂学区自治連合会のホームページ立ち上げ及び運営支援を行っています。より多様な形での地域まちづくりの情報発信の可能性を求め、また新住民など、より多くの住民への地域活動参加の促進を目的に、自治連役員が中心となって、桂坂に相応しいホームページのイメージデザインや掲載事項の取捨選択等について検討を行ってきました。ホームページは9月初旬より運用を開始し、自治連や桂坂学区の概要、地域の催しなどのお知らせの他に、桂坂地区の日常生活における便利な情報が掲載された「桂坂べんり帖」等も見ることができます。また、地域の情報のページでは、過去に行われた行事の概要や写真を随時掲載し蓄積していくことで、桂坂の風景や思い出を住民の皆さんで共有していければと思います。

桂坂自治連

検索

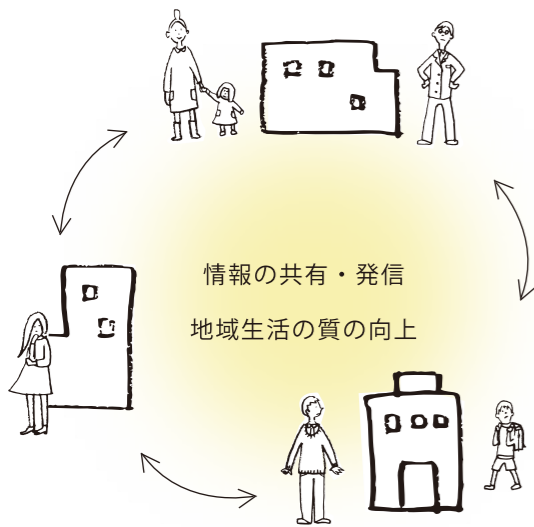
桂坂学区自治連合会ホームページ URL

http://kyoto-machisen.jp/chiiki_hp/katsurazaka/index.html



マンションで横のつながりを生み出す

— 明倫マンションネットワークの結成ときっかけ —



明倫マンションネットワーク

明倫マンションネットワーク（略称：MMN）は、明倫学区内の分譲マンションに暮らす住人同士、管理組合などの様々なつながりを活かして、マンション運営に役立つ工夫や事例の情報の共有・発信を行うことで、マンション住民同士の助け合いのネットワークを作り、地域生活の質の向上を目指す取組です。

MMNの取組紹介はこちらで → mmnetwork.exblog.jp

体制

- ・役員会（明倫学区内のマンション住民が主体となり MMN の企画や運営を担います。）
- ・評議会（明倫学区内の各マンション管理組合同士で意見交換を行います。）
- ・交流会（明倫学区のマンションに限らず、幅広く、講習、見学、談話等の内容の交流会を行います。）
- ・地域との連携（明倫自治連合会・明倫まちづくり委員会との連携のもとに活動しています。）

取組

- ・マンション管理運営の知恵袋（向上、問題解決のノウハウ、事例の収集）の作成
- ・問題解決のための助け合いの相談会、見学会等の実施
- ・顔の見えるお付き合いのための交流会の実施
- ・生活課題の解決に向けた地域との緊密な連携
- ・取組やお役立ち情報等の広報活動

2年前、明倫学区のマンション住民向け避難訓練が実施されました。自治連合会と自主防災会等が主催した訓練に150名以上のマンション住民が参加されました。これをきっかけに自治連合会は、翌年、「明倫・マンションと共にまちを創る会」を立ち上げ、国交省から「住まい・まちづくり担い手事業」の支援を受けて、マンション住民との意見交換会やアンケート、管理組合へのヒアリングを行いました。そして、この夏、意見交換会などの活動を通じて出会ったマンション住民が集まり、MMNを発足しました。役員会での企画会議を重ね、10月にマンション住民同士の意見交換の場となる第一回目の評議会を開催しました。MMNは明倫学区の地域とマンション住民の橋渡し役として、ますます期待されています。

文＝田中志敬

まちづくり実践塾第2回

— 地域と共存するマンションが取り組んでいる、マンション内外の自治の工夫を学ぶ —



マンション住民同士や地域とのコミュニティ形成、管理組合運営の工夫について意見交換会を行いました。衣笠グリーンハイツの現副理事長の沼田弘子氏（京まち工房 50号掲載）から大規模マンションの事例、MMN会長の中島康氏からMMNの取組とお住まいの小規模マンションの事例をお話いただきました。



沼田弘子氏

顔が見える関係になるよう工夫しています



中島康氏

マンション間で共に学び助け合うことをめざします



きっかけとなった避難訓練



MMN 発足総会の様子

景観・まちづくりシンポジウム

明日に活かす京町家

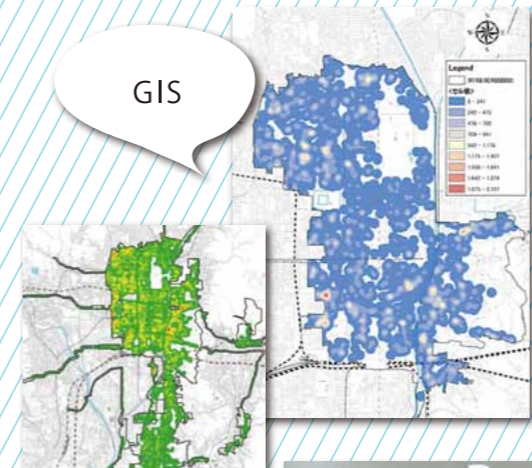
— 京町家まちづくり調査結果報告会 & 意見交換会 —

京町家等

47,735 軒

京都市域に残る京町家等を保全・再生していくために、「京町家まちづくり調査」が行われました。調査は、あらかじめ京町家等と思われる建物（56,209軒）に対して行い、京町家等であると分かった数は、**なんと 47,735 軒！**

平成20、21年度「京町家まちづくり調査」調査結果の報告と今後の展開についての意見交換を行うシンポジウムを開催しました。



意見交換



第1部

調査結果の報告の中で、GIS（地理画像情報システム）等の最新技術を駆使した調査データの活用について報告をしました。この技術を活用し、空き家や通り景観等の現状を地域ごとに分析ができます。今後はこれらを学術研究だけでなく、地域まちづくりにも生かしていきたいと思っています。

調査結果報告書 <http://www.city.kyoto.lg.jp/tokei/page/0000089608.html>

第2部

空き家や通り景観、調査員による次の取組について、3つのグループに分かれ、京町家が抱える問題や魅力について様々な切り口で意見交換を行いました。今後、各主体がこの調査結果を十分に活かすために、それぞれの立場から取組を行っていきます。

「京町家なんでも応援団」という新しいネットワークが生まれました。

本調査では、この十数年の京町家保全・再生を支えてこられたネットワークの方に加え、京町家に思いは持っていませんが、これまで直接関わってこられなかった方がボランティアとして参加されました。皆、調査を通してより深い京町家の魅力に触れ、『調査は終わったけれども、今後も何か続けて行きたい！』という思いを募らせてきました。センターが担当した第2部のテーマIIでは、調査員の方が、「京町家なんでも応援団」として、町家居住者へのサポートやイベントの企画などを行っていきたく、これからの意気込みを語り、町家所有者・居住者の方と意見交換する場となりました。

今、踏み出した一歩を、具体的な取組に発展させ、調査で広がったネットワークを生かしていきたいと思っています。

京町家なんでも応援団掲示板 <http://machisapo.bbs.coocan.jp/?m=listtop>
まちづくりチョビット推進室 <http://machi.hitomachi-kyoto.jp/suisin.html>
(平成22年10月23日出演)

文＝木下良枝、浜谷富美子、和田野美久仁



京町家まちづくりファンドの取組

京町家まちづくり散歩2010秋

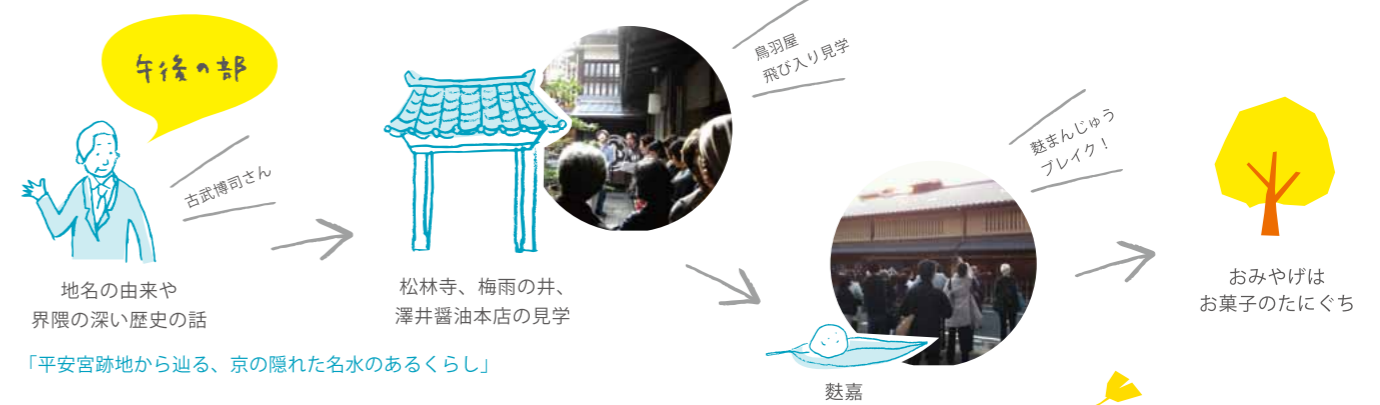
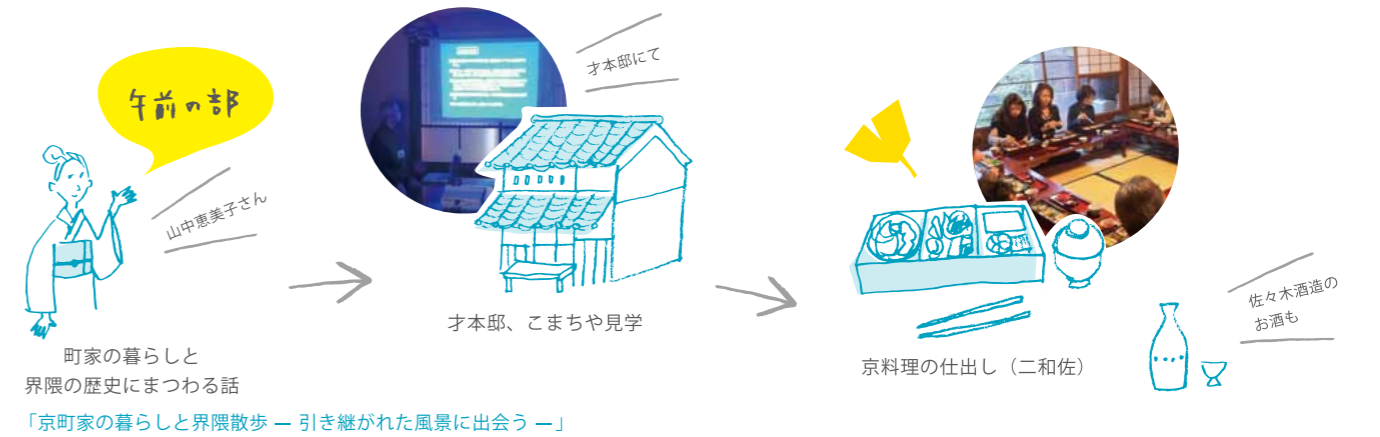
— 平安宮内裏跡・豊富な地下水の恵みを受けた暮らしが根付く場所 —

出水編



「京町家まちづくり散歩」は、京都市内の様々な地域を舞台に、京町家が育んだ暮らしの文化、空間の文化、まちづくりの文化を感じていただきながら、京町家を未来へ伝える意義をご理解いただくために実施しています。出水界限は、その名のとおり豊富な地下水の恵みを受けた場所であり、平安宮や聚楽第などの舞台でもあります。今回は、携帯電話などでQRコードを読み取ることで簡単に京町家の情報を入手できるWEBサイトを1ヶ月公開

(平成22年10月23日～11月23日)し、合わせて平成22年11月14日(日)にイベント&ツアーを実施いたしました。



午前の部では、京まちや平安宮代表の山中美美子さんから、町家の暮らしと界限の歴史にまつわる話をお聞きした後、京町家まちづくりファンドで支援した才本邸(京まち工房48号掲載)とこまちや(京まち工房50号掲載)を見学させて頂きました。お昼は京料理の仕出し(二和佐)を、洛中伝承の造り酒屋(佐々木酒造)のお酒と共に頂きました。午後の部では、西陣町家主宰の古武博司さんをガイドに迎えて、出水の地名の由来や界限の深い歴史についてお聞き

した後、まち歩きに出発。聚楽第のお堀跡「松林寺」と井戸跡「梅雨の井」で歴史を感じ、「澤井醤油本店」では内部見学、「麩嘉」では麩まんじゅうブレイクと、盛り沢山。途中、飛び入りで「鳥羽屋」も見学させていただき、貴重な体験ができました。最後にはお疲れ様のお土産(お菓子のたにぐち)も。水をテーマに、普段知ることのできない場所や、深い歴史を垣間見ることができました。

文 = 小林明音、中島宏典



イベント&ツアーの参加費の一部は、「京町家まちづくりファンド」への寄付とさせていただきます。ご協力を頂いた方、参加者のみなさまには、この場をお借りして感謝申し上げます。



今年ももう終わりだけど、最後まで気を抜かず頑張らないとね。とこが...



釜座町の町家の再生

— ワールド・モニュメント財団の支援を受けて —

(経緯は京まち工房51号に掲載)

町家って？



町内会の持ち物であり、会合や地蔵盆などに使用される家です。

平成22年10月末、釜座町の町家(中京区)が修復されました。

6月の工事開始からの工程は記録され、デザインコンペ、見学会、荒壁塗体験会などの参加企画も実施されました。町内の皆様も町家が生まれ変わっていく過程を体験することで、町家が自分たち釜座町のものであるという意識をさらに育まれたように思います。

11月12日には完成記念行事として、ワールド・モニュメント財団(World Monuments Fund:WMF/米国・NY)出席のもと、町内会が感謝をこめた釜座茶会を催されました。町内の釜師・16代大西清右衛門氏が席主を務められました。WMFのヘンリー・エンジー副理事長も美しく蘇った姿と修復に関わった人々の思いに感激されていました。

同日、広くこの取組を知っていただくため、「三条高倉ましかどミュージアム」(「まちなかを歩く日2010」の一環)として京都文化博物館に協力をいただき、写真パネルの展示を町家と同じく三条通に位置する別館ホールで開催しました。

WMFの支援による釜座町町家修復を主軸とした京町家再生プロジェクトは修復記録の編集など、普及・啓発に向けてステップアップしていきます。



京都文化博物館でのパネル展示



釜座町町家の前裁にて

釜座茶会の様子
左から町内の釜師・16代大西清右衛門氏、ヘンリー・エンジー副理事長(WMF)、稲垣日本代表(WMF)



写真 = 井上成哉 文 = 西井明里

第12回世界歴史都市会議が奈良市で開催!



平成22年10月、奈良市において世界各国の歴史都市が一堂に会し、各都市の市長等によって、「歴史都市の継承と創造的再生」をメインテーマに活発な情報交換が行われました。10月12日、専門家によるワークショップ「歴史都市の文化継承のための制度設計 — 技術の継承 —」に当センターの三村浩史理事長と武庫川女子大学の太谷孝彦教授が参加し、京都の伝統的町並みの景観保存と京町家の保全・再生における伝統技術の継承に向けた取組と戦略について発表するとともに、京町家再生に向けた国際協調プロジェクトとして、ワールド・モニュメント財団からの支援と協働についても紹介しました。西安市(中国)やジョグジャカルタ市(インドネシア)等、文化遺跡や原風景復活の事例も紹介され、各都市の共通課題の解決に向けた手法を模索する機会にもなりました。

京のまちづくり史セミナー

夏季には座学で、京の道とまちの成立する過程を学びました。秋季は例年大人気の「まちあるき」として実際のまちを歩くことで道とそれに関わるまち・人々の様子を実感する講座を行いました。

第3回 京の道とまちあるき①

— 洛北の御幸道を歩く — 宮廷人が見たまちなみと風景
講師：末松 剛氏（京都造形芸術大学准教授）
開催：10/16（土）

様々な古絵図に描かれているまちなみや道。どこか違う世界の様に感じる風景の現在の痕跡を辿りました。江戸時代の上皇が修学院離宮まで出かけた際に当時のまちの人が描いた絵図や、水をめぐり村同士で話し合いを行った時の書面などを見ると、当時の様子がよく分かり、今も残っている道や家々から、遠い出来事のような古い資料が身近に感じられました。
今回訪れた地域以外にも、まだまだ昔の人の生活やまちの様子が分かる資料が意外なところに眠っていることでしょうか。自分のまちのそんな資料を探してみるのもおもしろいかもしれません。

当時の道の使われ方を知り、歴史を追体験する。



文 = 和田野美久仁

第4回 京の道とまちあるき②

— 膏薬辻子を歩く — 通りを一步入ったまちなかのくらし
講師：上林 研二氏（地域生活空間研究所）/ 森重 幸子氏（京都大学大学院研究員）
開催：10/30（土）

「京まち工房 52号」で特集した膏薬辻子。四条通のにぎわいに隣接しながらも古き良きまちなみが残るまちで、辻子の成り立ちやこれまでの歴史と共に、現在も刻一刻と紡がれる膏薬辻子のまちづくりの歴史を学びました。講師の方々のナビゲートで辻子を歩いて住民の方の取組や想い等の生の解説を聞き、距離としては短いながらも見どころが詰まっていました。

今ではなかなか見られない昔ながらのポンプや、町内ホーロー板など懐かしいものがいっぱいある膏薬辻子を歩く。



その他開催イベント
第2回 まちづくり史基礎講座②（8/28開催） 京の道とまちの成立 ～辻子と街道と～
第5回 京の道とまちあるき③（11/20開催） — 東本願寺界隈を歩く — 境内・寺内・町と道の変遷を知る



京町家再生セミナー

— 町家の再生に一步踏み出すシリーズ —

第1回 町家の特徴と頼れる専門家の選び方



講師：河邊 聡氏（京都府建築士会）
会場：京都市景観・まちづくりセンター
開催：9/12（日）

河邊氏から、改修事例の写真や図面を見ながら町家の特徴や改修時の注意点を教えていただきました。構造補強の方法は一つでなく、その町家に合わせた専門家による判断が重要であるということや、定期的なメンテナンスの大切さ等のお話を聞いた参加者は熱心に質問をされていました。センターから、頼れる専門家の探し方や、専門家とおつきあいの仕方についてお話させていただきました。

定期的なメンテナンスは、住み手の心構えから！



河邊 聡氏

第2回 歴史的まちなみを地震・火災から護り抜く



講師：室崎 益輝氏（関西学院大学教授）
梅垣 浩久氏（京都市消防局防災危機管理室 防災課長）
会場：西陣ヒコバエノ家
開催：10/9（土）
共同企画・運営：関西木造住文化研究会（KARTH）

関西木造住文化研究会の拠点である西陣ヒコバエノ家に、約30名の方が集まりました。消防局の梅垣氏から、木造住宅が密集する京都で火災が発生した場合の市街地の延焼のシミュレーションや、京都市は他都市に比べて火災が少ないというデータを、ご紹介いただきました。また、防災学の第一人者である室崎氏より、京都の町衆の防災意識の高さが、京都市の火災の少なさに直結していることや、いざという時の個人の備え、町の備えが大事だということをお話いただきました。
参加者の皆さんには京都が京都らしくあるために、町家をはじめとする木造住宅をいかに守っていくか、身近な所から実践できる知恵や心構えを持って帰っていただきました。

文 = 浜谷富美子

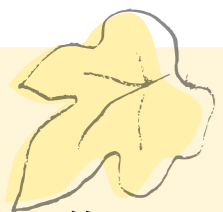
いつ災害がきてもおかしくない！といった心構えで、日頃から家族、町内で話をしておくことが大切。

梅垣 浩久氏

人命の名のもとに文化を犠牲にしてはならないし、文化の名のもとに人命を犠牲にしてはならない。



室崎 益輝氏



京町家再生セミナー参加者の集い

第1回 町家で、木のある暮らし — 季節や素材をたのしむ —

ゲスト：松田 直子氏（株式会社 Hibana 代表取締役）
コーディネーター：朝倉 真一氏（まちひろば計画工房）
会場：京都ペレット町家ヒノコ（中京区寺町通二条下丸榎木町 98-7）
開催：7/25（日）

参加者の皆さんで、健康や環境に配慮した暮らしとともに、季節を楽しむ、夏の暑さや冬の寒さを上手に乗り切る工夫をテーマに開催しました。
現代の暮らしでは、少しずつ「木」が使われる機会は減っています。しかし、「北山杉でできた家の家具は孫に大人気」「床の間のしつらえがいい」という身近な木の心地よさの意見もたくさんありました。廃材やオガクズを固形化した「ペレット」を燃料とするペレットストーブも展示されており、木と触れる新しいライフスタイルを考える場になりました。

スライドや紙芝居で楽しくお話いただきました



第2回 わが家のオリジナル鍾馭さんづくり — 町家の屋根・瓦・鍾馭さん —

講師：光本 大助氏（有限会社光本瓦店 代表取締役）
コーディネーター：朝倉 真一氏（まちひろば計画工房）
会場：京都市景観・まちづくりセンター
開催：10/23（土）

町家の屋根・瓦・鍾馭さんについてお話いただくとともに、オリジナルの鍾馭さんづくりをしました。製作中は、エプロンやはち巻きをして気合いを入れて、皆さんの目は真剣そのもの。「出来が良すぎる！」とは光本さんの談。
鍾馭さんはこの後、乾燥と釜での焼成を経て、手元に戻ってきます。「まえから家に飾る鍾馭さんをつくってみたかったから、とても楽しかった」それぞれの余韻を残しながら、あっというまに終了。これからは、まちを歩く時に鍾馭さんウォッチングを試してみたいかもしれません。

文 = 大屋みのり

それぞれの鍾馭さんを思い描いて



母 飛鳥 もしかして...



私と京都

上賀茂神社（賀茂別雷神社） 権禰宜 村松 晃男

いつの間にか、再び京都



百年前にここを歩いていた人も、この風景を見ていただろうな。

私は四季折々の賀茂川の景色を見て育った。そこは探検基地で運動場。いつも未知との遭遇がある世界だった。そして、知らず知らずのうちに自然を肌で感じていたのだろう。正月には凧を揚げ、春には桜を眺め、桜吹雪の中を行く、新緑のトンネルを葵祭の行列が進む。運動場では野球選手にもローラースケートにも。時々ヘリコプターまで下りて来る。川に入れば、手に取る虫は凶鑑に登場する様々な虫たち。見上げると遠くに大文字山、夏休みもうすぐ終わるぞと送り火を見て先祖を送った。秋、青々としていた芝生に突然真っ赤な彼岸花の出現に驚き、童謡通りの虫の音に季節の変わるのを教えられる。時には台風が川の姿を一変させ、自然の怖さを目に焼き付けた。大雪に見舞われたある日、堤の斜面を滑り下りる、まるでジャンプ台を滑降するつもりで。

当たり前のように人生は波風立たず、順調に行くものだと思っていた。

25年前、もう京都に戻ってくる事はないかもとアメリカに渡った。

テレビドラマのアメリカと現実はずぶん違っていた。

初めて本当の世界を教えられた。

地図上に線で区切られ、赤や青で色分けされた国で埋められたきれいな地球儀が世界だといつの間にか勘違いしていた。いや違いと分かっているのに、実感がなかった。

世界中の民族が暮らす街。整然とそれぞれが暮らしている。心地よくもあり、不思議でもある。何が人々を色分けしているのだろう、何が地球儀の様に線引きしているのだろう。

街の中心にある荘厳な教会を覗いてみた、下町の教会を覗いてみたりした。祈り。民族。そして宗教。京都は今も世界に誇る宗教都市。宗教に興味を持ったのは必然なのかも知れない。

豊かな自然が育んできた日本の文化。街の中心にせせらぎを見る事が出来る京都。変わらぬ自然が何とか保たれている数少ない大都市・京都。しかし、暮らす人々の自然を思う気持ちが100年前と随分変わってしまったと感じているのは私だけではないのでは。

身近な自然を思いやる。そんな気持ちが暮らしの中で育まれる大都市・京都であり続けてほしい。

100年後にここを歩いている人も、きっと同じ風景を見ているだろう。

ふっきーの徒然なるままに



第6回 自然との共生 — 生物多様性への配慮 —

ふっきー

正義感が強く、いつも町内の皆のことを気にかけている真面目なリーダー。



今、「生物多様性に配慮した暮らし」が大きなテーマとなっている。簡単に言ってしまうと、他の生物と同じ自然の一部である私たち人類が、我欲を捨てどううまく他の生物と共存していくか、自然の恩恵をどう分かち合えるかということである。

先日、ある番組で渡り鳥のために、冬田んぼに水を張るという地方の取組が紹介されていた。水の張られた田んぼは、イトミミズやミジンコなどが繁殖し、それを餌とするドジョウなどが住み、蛙の産卵を助ける。成長した蛙はカメムシなど稲の害虫を駆除してくれる。そして、餌の豊富なその地域で冬を過ごした渡り鳥の排泄物は自然の肥料として田んぼを肥やす役割を果たす。本来、稲作りの外敵であった渡り鳥（雁）を駆除するのではなく、渡り鳥との共生を図ろうとする取組であり、徐々に広がりを見せているそうだ。

収穫は8割ほどになるが、そこでできた米は、「ふゆみ

ずたんぼ米」として、自然米で美味しく、二倍ほどの価格で売れるという。まだまだ課題は多いことであるが、生態系を崩さずお互いが相手に益を与えつつ自らも益を得るという考え方と取組は、注目すべきものと思う。大事なことは、地方の小さな自治体が、人間環境にもやさしいこの「ふゆみずたんぼ米」の耕作を条例で支援していること、農協や三セクが収穫した米の全数を買上げるといった連携をとっていることである。関係者の苦労は大変なものであろう。生物多様性への配慮を云々するのであれば、このような取組への支援を考えてはどうであろうか。

人間にやさしい生産物の供給と良好な生態系の継承、地域産業の活性化という一石三鳥とも言える建設的投資政策に努力している自治体にも敬意を表したい。

スタッフのつぶやき



スタッフ N.K

好きなお酒はどぶろく。飲みすぎてハラいっぱい！



私は「とかいなか」に住んでいます。「とかいなか」とは都会の便利さと田舎の魅力を併せ持つ地方都市だそうです。駅前までバスで25分。山や田畑に囲まれ、昔のしきたりや伝統が多く残る村です。「地域コミュニティ」というと現代的で難しく感じますが、農業を通して築き上げた人のつながりは、強く温かいものです。もめ事も都会と事情が違い、よくあるのは田畑に使う水の取り合いです。「なんて平和なご近所問題！」と思

われるかもしれませんが、みんな、農業のことでは必死です。でも、人のつながりが自然に醸されているので、近所付き合いが悪くなることはありません。仕事柄か、そんな村の風習に魅力を感じます。田園風景に癒しを求めに来られる人も、心のつながりを感じられているのではないのでしょうか。田園風景だけでなく、目に見えない日本の原風景も次世代につないでいきたいものです。

赤ちゃんじゃない？

